令和７年度 義務教育学校福移学園 「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：23008
33004

実態

「学ぶ力」

これまでの成果	課　題
◇個人差や学年差は大きいものの、令和６年度の全国学力・学習状況調査では、**国語、算数・数学ともに全国平均と同程度もしくは上回る**結果となった。質問紙調査では、**学習に対しての前向きな姿勢がうかがえる回答が多かった。** ◇札幌市の共通指標の、「**20 疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている**」と「**21 分からないことはそのままにせず、分かるまで努力するようにしている**」について、昨年度よりも**肯定的な回答が大幅に増えた。** ◇課題探究的な学習を中心とした校内研究を行い、**１人１台端末を活用しながら調べたことや考えたことをまとめたり発信したりする活動を充実**させることで、**主体的に学習を進める姿が増えている。**	◇令和６年度の全国学力・学習状況調査では、**６年国語「書くこと」、９年国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」、６年算数「データの活用」**について**全国平均をやや下回る結果となった。** ◇札幌市の共通指標から、「6 自分が思っていることや感じていることを人に伝えている」「7 自分の意見を進んで発言しようとしている」について、他の項目より肯定的回答の割合が低い。また、「19 自分で計画を立てて勉強している。」や「23 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」についても昨年度より改善しているものの他の項目より肯定的回答の割合が低い傾向が見られる。

「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く**相互承認の感度**〉の現状と課題

◇札幌市の共通指標から、**「自分が必要とされていると感じる」ことにおいて、昨年度から改善は見られるものの肯定的な回答の割合が低い。**一方で、「人の役に立ててうれしいと感じることがある」や「人の役に立つ人間になりたいと思う」ことにおいて、学年によらず肯定的な回答の割合は高い。人の役に立って認められたい思いはあり、認められて喜びを感じることはあるものの、そうした場が十分ではないことが考えられる。また、「人の意見を聞いてそれを参考にして自分の考えを見直すことがある」ことにおいては、肯定的な回答の割合が高い。人の考えを聞くことに比べて、自分の考えを伝えることについての肯定的な回答が低いということを踏まえると、協働の必要感や技能を高めることに加えて、安心して自分を表現できる環境としての人間関係づくりも必要と考える。

「学ぶ力」の育成のためのテーマ

主体的に学び合い、進んで発信して高め合う子どもの育成～９年間の人間関係の土台づくりを通して～

取組

AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進

◇**課題探究的な学習において、身に付けたい力を「６つの資質・能力」に整理する。系統や段階を明確にして、教員間で共通認識のもと、各教科の学習を構成する。**
◇**総合的な学習の時間で行うフク発を、リフレクションの場の一つとして位置付け、主体的に学習する態度と資質を養う。**
◇**よりよい人間関係を土台として学びを深めるために、道徳の時間や学活などの時間を活用した人間関係づくりカリキュラムを設定して実践する。また、同学年の横のつながりだけでなく、異年齢集団の交流を通した縦のつながりを深めることで、自己存在感や自己有用間・自己肯定感を高める。**

身に付けたい ６つの資質・能力
「情報収集力」「分析・考察力」「発信力」
「主体性」「協働性」「創造性」

さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実

◇**よりよい学校生活の実現に向けて、学年や学校全体の課題の解決を目的とした学級活動での話合いを充実させる。**
◇**各活動において、振り返りの場と時間を保障する。**
◇**委員会活動では、前期課程と後期課程が別々に活動する時間と、全体で活動する時間を設け、組織立てた自治的な活動を促進する。また、全校朝会において各委員会からの発信の場を設定する。**
◇**レインボー活動を中心とした異学年交流において、縦割りグループごとに役割を分担して企画・運営を行う。**

〈本プログラムの実行に向けて〉

年度始め
◇成果と課題の共有と本プログラムの方向性の確認（3 月）
◇本プログラムの具体化と、教職員や家庭との共有（4～6 月）

〔一人一人の教職員〕
◇日常の授業・教育活動
◇授業公開での実践発表
◇各自の研修(札教研、年次研修等)

〔学校全体〕
◇職員室内での学級担任や教科担任との情報共有
◇９年間のつながりを軸とした実践交流

次年度へ
◇札幌市の共通指標アンケートや学校評価の分析（1～2 月）
◇本プログラムの成果と課題の共有と次年度の方向性の確認(3 月)